

# PV-Net News

—第14号—



PV-Net News第14号 2007年6月11日発行 ■発行人：藤井石根 ■編集人：都筑 建 ■発行所：NPO法人 太陽光発電所ネットワーク 〒113-0034文京区湯島1-9-10-202

■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail：info@greenenergy.jp TEL：03-5805-3577 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。

■インターネットでも情報をご覧いただけます。www.greenenergy.jp ■印刷：豊印刷(株) ■レイアウト・編集協力：八木澤晴子

※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。

太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

## CONTENTS もくじ

### I ニューストピックス

- ・第5回総会が開催されます
- ・組織の全国化への取り組み

### 3 特集1 PV-Greenを取り巻く状況 PV-Green販売体制について

### 5 ユナイテッドアローズにおける PV-Green販売状況

### 6 特集2 ソーラーマイレージ事業の 展開

- ・全国イベント開催報告
- ・ソーラーヘルプデスクの  
お知らせ
- ・次年度へ向けて…

### 7 関西地域交流会、ソーラーマ イレージイベントへ参加!

### 8 相談室スペシャル ・PVシステム施工品質向上 に関する調査報告

### 9 新連載 PV-ResQ! 準備隊長のつづき

### 10 PV-Net最前線 カーボンフリーな暮らしのススメ

### 11 PV-Netからの政策提言

### 12 各地の発電量データと 太陽光発電所マップ

### 14 会員の広場

### 16 活動報告 地域の動き

### 22 理事会&部会報告

### 24 事務局からのお知らせ 活動カレンダー

## COLUMN コラム

### 7 発電所所長のつづき

### 21 PV-Net川柳 第十二回

## NEWS TOPICS

# 第5回総会が開催されます

### ■PV-Netも5年目

5年目のNPO/NGOはこの世界では中堅どころに位置されます。

真摯に会の目的(環境貢献)に向かって実績を挙げてきたものの、評価が正当に認められる時期に入ったともいえます。

昨年はNPO法人となって財政的にも自立が試された年でした。運営の資金繰りに悩まされながら、又多くの会員の献身的な助力(寄付等も含めて)を得て乗り切ることができました。

今年は自立を基盤にしながら、ネットワークの全国化を進め、PVとともに省エネ・その他の自然エネルギーの普及に貢献するような提言をしていきます。周囲からも大きな期待が寄せられています。

### ■総会プログラムは交流を主体

今年の総会は例年の基調講演でなく、各地の注目される取組みを報告し、互いに交流を図ることが目玉です。12月大イベントが助成

事業がらみとなることから、総会のプログラムは交流を主体にしたものになります。TV会議を利用し、全国参加を実現する試みも楽しみです。

### ■2007年度の方針を確認し 新しい役員を選出

基本テーマ<自立基盤の整備とNPO法人としての社会的信頼度の向上>を中心に活動方針と予算を確認し、全国化を具体化した上での新しい役員を選出します。

限られた時間を有効に活用して、年度の出発の決意と交流を図る総会となるでしょう。

- ◆日時：2007年6月30日(土)  
13:30~(開場13:00)
- ◆会場：明治大学リパティタワー 14F  
1143教室
- ◆プログラム(予定)  
13:30~ 第1部 通常総会  
16:00~ 第2部 地域交流会活動報告  
17:00~ 記念撮影  
17:30~ 第3部 懇親会

※明治大学へのアクセス  
都営新宿線/三田線/半蔵門線 神保町A5出口より約8分  
都営新宿線小川町駅 千代田線 B5出口より約5分  
千代田線 新御茶ノ水駅 B1・B5出口より約6分  
JR/丸の内線 御茶ノ水駅 御茶ノ水口より約3分

## 組織の全国化への取り組み

### (1) PV-Netの生い立ち

PV-Netは関東から始まった。正確にいうと東京電力(株)のサービスエリアから始まったといってい

い。つまり東電のサービスエリア内のPV設置者にネットワーク結成参加についてのアンケート発送を協力してもらったからである。関

東外の参加者が増えだしたのは、ホームページの開設と、『わが家では始める太陽光発電』の本の出版が契機となった。アンケートを基にPV-Netの活動と組織の骨格は定款(当時は規約)として確認できたが、実際の運営は白紙の状態であった。

- 運営の基本としたのは、
- ①会員の自主的参加
  - ②NPO/NGOの規範にあった運営
  - ③全国展開を視野に入れる
- この3点であった。

関東といっても山梨、静岡も含めて東電サービスエリアは広い。便宜的であったが県単位で基本運営の①の「会員参加」の条件を整えるために地域交流会を設置することにした。結成直後から事務局主導で組織化を行い初年度内に9都府県全部に地域交流会を作り、その核になる世話人会も不ぞろいであったがリストアップされた。いまから冷静に振り返るとネットワークの要となる地域交流会の組織化や運営についての「規範」をある程度確立してから進めるべきであったようだ。一旦走り出すと全体を調節しまとめて運営すること、自立的に活動することの調整が難しくなるからである。

ともかくも各県単位の地域交流会ができ、そこから理事が選出され、発起人理事とあわせたPV-Net全体を運営する理事会が構成されることになった。関東の理事=全国理事であった。結成1年目は「組織の確立」、2年目は「組織の充実と基礎固め」に時間を掛け、3年目を「組織の全国化」とする予定であったが、財政の先行きを考慮し、基盤づくりにいま少し時間をかけるとして、3年目は「組織のスリム化と発展」となり、関東理事中心の運営展開が続いた。4年目の昨年は基本運営(2)の「自立基盤の整備とNPO法人としての社会的信頼度の向上」として進め、基盤固めが整った。

(2) 全国展開開始まる

PV-Netの知名度と実績が上がると、特にグリーン電力証書事業の展開にともない、会員は急激に全国に広がる様相を見せだした。全国化にあわせた組織づくりが真剣に検討された。

昨年の2006年度議案書(P28)活動方針の中長期計画「3.地域交流組織」と題して全国展開のブロック制のイメージが図入りで初めて示された。

具体的には、表1の活動範囲イメージとして関東・中部東・関西東・九州をブロックとして組織化するもので、それぞれのブロック組織目標会員数を掲げたものだった。

2008年度までの地域展開イメージとしては、2005年から2008年までのブロック内組織化を提示していた。中部と関西は2006年度ではブロックの交流会のみが作られ、九州はブロックと共に各県単位組織を作るスケジュールで、おおむねその形は作られた。関東地域は2003年から9地域交流会が組織化され稼働しているが2006年以降もブロックの地域交流会でなく9都府県の地域交流会の存在のままとされている。ここで言うブロックの地域交流会は広域交流会と呼ぶことが実態にあっている。

(3) ブロック制を明確にして充実させる

関東の会員はこのブロック制に少し戸惑いを覚えている。関東の各県理事=全国理事でなくなるから。九州・関西・中部それぞれは広域交流会が先に作られ(宮崎は

●表1 活動範囲イメージ

| 地域ブロック | 06/5会員数 | 増加見込み | 見込み会員数 |
|--------|---------|-------|--------|
| 関東地域   | 1290    | +190  | 1480   |
| 中部地域   | 47      | +200  | 250    |
| 関西地域   | 52      | +200  | 250    |
| 九州地域   | 92      | +400  | 500    |
| その他地域  | 32      | +10   | 40     |
| 合計     | 1513    | +1000 | 約2500  |

例外として)、その後各県単位の地域交流会が旗揚げしている。関東も含めて、広域交流会の代表たちが専門部からの理事と合わせて全国の理事会を構成することになる。しかしまだ圧倒的に関東の会員が多い現段階では関東の影響力の強い運営となるが、遠くない時点で広域交流会の中に県単位の地域交流会が作られ広域交流会の運営が進めば文字通りの全国組織となる。

移行期の運営は移行期間によって変わってくる。2年なのか3年なのかはPV-Netの組織化と活動内容の展開によって違うし、グリーン電力証書事業などの進展による会員拡大が進む度合いにもよるだろう。また、定款をはじめとする規定類も合わせて整えていく必要がある。

(4) 事務局の役割

地域活動がPV-Netの活動基盤である。発足当初の事務局は地域と一体になった運営をしてきた。全国ブロック化が進むと事務局の役割も変わってくる。本来ならその広域の事務局も必要となってくるが、組織は財政的な裏付けを基にして作られるため、むやみに専従のスタッフを配置することは出来ない。事務局の兼任的な運営とブロックにおける会員の自主的活動と合わせて運営していくことになる。関東だけであったこれまでの事務局の活動から、全国の事務局の活動へと変わり、その役割は全国の調整機関としての側面が強くなっていく。これに加えて機能的な役割を担った専門部との協働が不可欠であり、その充実も同時に進める必要がある。

5年間の活動からいえることだが、PV-Netのような組織は事務局の果たす役割は大きい。そのためにも不眠不休のような活動では長続きしない。事務局の役割の範囲やあり方には会員の理解が深められる必要がある。

A. 全般的な動き

1. RPS法見直しとPV-Green

RPS法とは、電力事業者が新エネルギー(自然エネルギー)を義務的に一定量供給しなければならない法律だが、実はグリーン電力証書と大きく関わっている。本来は電力事業者が割り当てられたグリーン電力量に過不足があれば、その分を市場に於いてグリーン電力証書で融通する制度であるが、日本の場合「代行」として事業者同士間の直接相対で出し入れすることになっている。そのために中途半端な法律になっている。

電力会社が義務量としてPVからのグリーン電力を国に登録するとその電力の環境価値がカウントされることを意味する。しかし法律にはそれが明記されていないため環境価値の所有者がPV発電者なのか電力会社なのか不定のままである。環境価値のダブルカウントが起こる可能性がある。この点を明確に売電部分も含めてPV設置者に帰属すべきと提言したのが本会報のP11の「PV-Netからの政策提言」の提言7である。

2. グリーン電力認証機構の役割

グリーン電力証書発行社は現在3社である。NPO法人PV-Netと日本自然エネルギー(東電の子会社)と自然エネルギードットコム。しかしグリーン電力証書を発行しない認証申請者がいる。サミットエナジーとシャープである。

前者は発電事業者が自社工場内の廃棄物発電の環境価値を証書化して売る方式だが、実行はまだのようだ。後者は波紋のある内容だ。シャープ亀山工場の国内最大のPVシステム(5MW)を認証機構へ申請し、その認定された価値を本

社が購入し、さらに本社が亀山工場へ証書を寄付する形で戻すと同時に他から新たに5MWのグリーン電力証書を購入して合計10MW分の環境価値を持った工場にすることを申請し、グリーン電力認証機構もそれを認めた。認証だけを獲得し、液晶テレビ営業のイメージアップに活用すると言う。証書の新しい使い方であり、認証機構の有様にも影響するものである。

3. 計量法適用は時期尚早?

認証機構では計量法計器設置を原則3年後適用となったが、この規制はグリーン電力の特有のあり方を生かすことなく、特に既存のPV設置者の環境価値活用の道を狭める可能性が大きい。PVメーカーの協力がまだ定まらない時点では計量法適用は時期尚早といえるのではないか。

4. 佐賀モデルの波及と基金

次項の報告にあるとおりに佐賀で実施されたグリーン電力証書活用のPV普及奨励策は全国が注目するところになっている。PV-Netとしてヘルプデスクを含めていかに佐賀モデルを生かすが今年の課題である。

また、さらにPV-Green事業部では、環境価値の移動に伴い、交付の一部を基金化して環境貢献ができるようにする準備を進めている。基金そのものは少額だが、すでにプールされている。その運用の仕方を決める段階となっている。

B. 新しい地平を広げた佐賀住宅太陽光発電トップランナー推進事業

1. 企画コンペ

佐賀県からのグリーン電力証書を活用する企画打診は一昨年05年

の秋から始まっていた。国の補助事業が終わり、PV普及奨励の役割を地方自治体が担う方向になっていた時期である。PV-Netでも、神奈川県をモデルにした自治体が大きく関与するグリーン電力証書ビジネスモデルを検討した時期でもあった。個人住宅PVのグリーン電力証書事業ではPV-Netのみが手がけ、ノウハウも蓄積しつつあったのでその知識と経験を佐賀県へ提供し、佐賀県も新しい補助事業の仕様にそれらの多くを参考にした。しかし企画コンペが待っていた。自然エネルギードットコム(株)と競った。本体企画づくりは岩瀬さんに、ロゴ企画では坂さんに手伝ってもらった。計量法の取り扱いなども絡み決定が遅れたが見事PV-Netが県とNPOとの協働(コラボ)として選ばれた。

2. 佐賀地域交流会

佐賀県との打合せが始まった時期には九州全域の地域交流会の組織化が進んでいた。幸いにも再生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本(REPW)が率先して組織化を後押ししてくれた。佐賀の西森代表、新原副代表が何度も準備会をセンター事務局と共同して開き地元組織の佐賀地域交流会を正式に立ち上げることができた。地元組織があり、事務所をかまえ専任メンバーを加えたことは、佐賀県としてはPV-Netへ好感の持てる要素であった。

3. 新しい補助制度と1000件の高い目標

年度としては遅れ気味の06年8月に正式な事業説明会が県庁大会議室で行われた。出席者のほとんどが設置販売業者だった。あまり質

問もなく散会したがその静かさの意味がこのとき解からなかった。

なぜ佐賀県がPV設置率で日本一なのか解かるには少し時間がかかった。県民の環境意識が特別に高いわけでもなく、葉隠れ精神の生きている地だから「もったいない精神」は他県より少しはあるがずば抜けているわけでもない。持ち家率が高いこともあるが、なんとと言っても設置販売事業者の活動が非常に強いために日本一になったと言っても過言でない。PVの情報はすべてPV設置販売業者からもたらされ、数少ない県単位のユニークな補助政策であっても、彼らが理解しにくい政策は歓迎されにくかったようだ。静寂の中に一歩前にすすめない業者の気持ちが現れていた。

06年9月の第一回のグリーン電力認証申請の締め切りを行ったが、1000件の目標に程遠い100件に満たない申請だった。たとえ初回にしても少ない。2回目の締め切りは06年12月であったが申請沈滞気味は改善できず、設置業者の反応の

鈍さは相変わらずであった。

#### 4. PVユーザーの声がはじめて挙がったユニークコンテスト

設置販売業社の力が強いことは業者からしかユーザーに情報が流れないことを意味している。もっと直接市民に、世界に例の少ない佐賀県の事業を理解してもらうことが必要と判断し、企画したのが「佐賀県内のPV設置者ユニークコンテスト」であった。武雄市と佐賀市で予選会を行い、本選会を佐賀市で行った。九州各県の地域交流会の皆さんの協力も得て07年1月に開かれ、大きな反響を呼び、これを契機に設置販売業者を含めて佐賀事業への理解が全国的に浸透していった。

#### 5. 最後の追込みと説得

最終申請締め切りが4月15日だったがソーラーヘルプデスクとなった佐賀事務所は設置希望者からの問い合わせが日々増えだし、メーカー交流会で親しくしているPVメーカーにも協力を依頼し、さ

らに念を押すように設置販売業者への環境価値こそ今後のPV販売の要だとの説得も含めて業者事務所を直接訪ねて回った。この頃が最も困難な時期であった。最終段階ではマスコミ回りをして「知らないままに補助金を見過ごす市民を多量に出さない」ように訴え、ほとんどの新聞社が取り上げて報道し、反響があった。最終の申請者は516件であった。06年度の新設PV設置者が全国的に落ち込んでいることと佐賀県内でも800件強だったことを考えると目標には達しなかったが健闘した結果といえる。

#### 6. 次年度を目指して

次の07年度もPVトップランナー推進事業は継続される。佐賀でPVの環境価値がさらに普及することになるが、今年も企画コンペが予定されている。目標件数が600件となっている。もちろんPV-Netは昨年の実績を踏まえて佐賀地域交流会をベースに参画して日本の中で佐賀県がPV普及の原点になるように協力をしていきたい。

管理も行っている点である。その特長を生かして多角的な取組みとして各地の地域交流会で関わるイベントや地域内の企業・団体にPV-Greenを採用してもらう働きかけがなされている。地元産のPVグリーン電力証書を指定しがちなところから地元のPV設置者が早く交付対象になる利点が生まれる。地産地消の営みである。

しかし地域交流会中心だけでは事業として充分でない。

#### ◎営業パースンの設置

PV-Greenは企業の事業である。商品としての「PV-Green」は参加会員が日々生産し供給する。現在のところその供給はまだ余裕がある。早くPV-Greenを売り各人にお金が交付されるようにし、環境価値の実感を早く覚えてもらうことが肝心である。「PV-Green」を売る

ときは、グリーン電力証書の仕組みを理解してもらい、その意義を強調し、購入してもらうには時間と根気と経験と熱意がいる。計画的でなければならない。これまでの経過を見るとボランティアだけでは限界がある。

1. 売る意欲がある。
2. 責任もって一定の売り上げになるように努力する。
3. PV-Netの特色を生かせる。
4. 多くのメンバーが支えあうように協力する。

これらの条件を備えたメンバーが営業パースンとなって、積極的にPV-Greenの販売を行うことが今急務である。

現状は数社の企業以外は「スポットもの」といわれるイベント系が大多数である。徐々にだが、PV-

Greenへの注目度は上がってきており、販促拡大の下地が出来てきた。しかし待ちの状態だけでは販売に繋がらない。

積極的な説得するメンバー「営業パースン」が必要である。PV-Net内で現在会員2名非会員1名(近日中に会員になる予定)の3名の営業パースンが試行中である。今後会員内にも広く「営業パースン」として活動して良いという方々を募集している。

その「営業パースン」とは対象者として男女を問わず、学歴・経歴も問わない。目的の1~4を満足させる意欲のあるメンバーを対象とする。営業パースンは登録制とし、はじめをつける必要がある。登録先はPV-Green事業部とし、1年見直しで継続可能とする。

一営業パースンは完全歩合制の条件一  
○複数年度契約の場合

完全歩合制(初年度、次年度以降下記の1/2)

1. 成約まで…※%(現在は目安)
2. 紹介(成約後)…※%(現在は目安)
3. 必要経費支給(交通費等)  
対象: 証書売り上げ高が5万円(現在は目安)以上

○スポットもの(短期間の時間内)で消費される

個人は原則なし。地域交流会として登録実施条件は上記(地域活動費に充当)

対象: 制限なし(ただし状況を勘案して協議あり)

問い合わせは太陽光発電所ネットワーク事務局及び事業部メンバーへ。

## ユニテッドアローズにおけるPV-Greenを取り巻く状況

### ★株式会社ユニテッドアローズ

広報宣伝部 広報・CSR課 社会・環境活動担当 玉井 菜緒

当社は、全国に約100の店舗を展開し、紳士服・婦人服・生活雑貨等の企画および販売をおこなっています。企業理念の一つである「社会価値の創造」のもと、環境問題にも取り組んでおり、お客様にもっとも近い小売業ならではの内容をこころがけています。

世界的な環境の日であるアースデー(4/22)に東京・代々木公園で開催される、市民による環

境フェスティバル「アースデー東京」のサポートもその一つ。ボランティアスタッフが着用するユニフォームTシャツの提供のほか、今年は「アースデー東京」の会場に程近い渋谷地区の6店舗に、グリーン電力を導入しました。同店舗が1日に使用する電力の総量は、およそ4,000kWh。この4,000kWh分のPV-Green証書を購入し、アースデー当日は太陽光によって発電された自然エネルギーで営業しました。PV-Green証書ならではの電力の産地指定もおこない、導入地域と同じ東京都内での発電されたグリーン電力を選択。より多くのお客様にグリーン電力に触れていただくべく、活動の内容やグリーン電力証書について解説したフリーペーパーも導入店舗で配布しました。



UNITED ARROWS LTD.

数あるグリーン電力証書からPV-Green証書を選んだ理由は2つあります。1つは、日本の太陽光発電の導入量はトップランクにあり、同発電は人々に身近な存在であるため。もう1つは、PV-Green証書は地域のみなさんと一緒に自然エネルギーの普及促進に貢献できるためです。当社は、地域に愛される「ご近所の商店」をめざしており、PV-Green証書はまさに地域に根ざした環境活動であると考えました。

今回はアースデーに合わせた範囲も期間も限定しての取り組みでしたが、これからは様々な形でご協力できればと考えています。



今回の活動に合わせて作成した小冊子とグリーン電力証書

## PV-Green販売体制について

PV-Netのグリーン電力証書、PV-Greenは今新たに飛躍の時を迎えている。なんといっても佐賀県の住宅用太陽光発電トップランナー推進事業に採用され516件の新規PV設置者が証書活用を開始した。

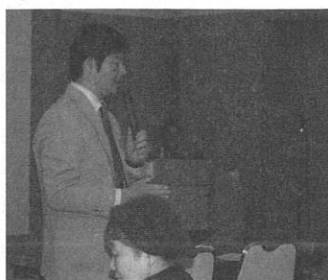
40円/kWhという破格の価格で佐賀県内のみのものであるが、ゆくゆくは通常のPV-Greenに移行していくものが多いと予測される。この事業を準備するだけでなく推進

●表1 PVグリーン電力証書販売状況 2007年5月まで

|                                |    |        |
|--------------------------------|----|--------|
| 大阪ミニ証書                         | 大阪 | 400    |
| エネルギー&エコロジー博覧会2007 in 四国       | 香川 | 2,000  |
| 丸の内イルミネーショングリーン化キャンペーン         | 東京 | 24,560 |
| 掛川市環境市民の集い                     | 静岡 | 1,000  |
| ユニテッドアローズ アースデーアクション           | 東京 | 4,000  |
| 岡田純理士事務所及び自宅(2006年度分)          | なし | 3,000  |
| 大阪ミニ証書                         | 大阪 | 120    |
| 個人                             | 静岡 | 1,000  |
| 千葉ミニ証書                         | 千葉 | 100    |
| 関西リサイクルシステムズ株式会社               | なし | 50,000 |
| 香川県環境学習プログラム「活動事例 地球温暖化防止」パネル展 | 香川 | 500    |

# 特集2 ソーラーマイレージ事業の展開

3月24日(土) 四谷の主婦会館プラザエフにて「ソーラー・マイレージクラブ全国大会」が開催されました。壇上には、ソーラー・マイレージクラブとして特徴的な取り組みを行った地域協議会や、クラブ会員で特に省エネルギー生活を実践された方や面白い工夫をされた方々が登壇し、生き生きとその取り組みを語って下さいました。初年度の事業ながら、全国から60名の方々が集まり盛況な大会となりました。イベント開催の他、PV-Netはセンター業務として、ホームページの立ち上げ、ソーラーヘルプデスクの開設を実施するとともに、来年度に向けた取り組みも始動させています。



会場でのコミュニケーションが好評だった甲斐講師

## ■3月24日全国イベントを開催しました。

「ソーラー・マイレージクラブ全国大会」には、6地域協議会のメンバーはもちろんのこと、省エネに関心をもつ一般の方や多くのPV-Net会員が参加しました。会場には各地域協議会が取り組んできた活動展示が貼り出され、皆さん熱心に見入っていました(写真参照)。PV-Netの活動ではよくある実践者同士の集まりですが、地域協議会として参加された団体の中には、このようなイベントを初めて経験される方も多く、とまどいながらも手応えを感じていらっしゃるようでした。

### ●基調講演

基調講演は「つながる・ひろがる、エコ省エネ暮らし方」をテーマに甲斐徹郎氏(エコロジー住宅市民学校主宰)にご講演いただきました。ワークショップ形式を取り入れた「体感温度」体験は参加者を飽きさせず、大好評をいただきました。

### ●ユニークな省エネ取り組み報告

個人の取り組み発表では、「エコワット(電気機器の消費電力表示)をつけてさらに省エネ意欲がアップしました」(関西：南里靖雄さん)。「24時間風呂を撤去したら、毎月の

電気代が半額に…、家事の中で、生活の中で、無駄を省いて環境にやさしい生活を送る工夫をしています」(千葉県 岩崎涼子さん)。

小学校などの出前授業で省エネ講座やエコクッキングを通じ、市と協働で作成した環境家計簿の普及啓発を行いました。また、個人の取り組みとして3Rの意味から家庭用生ごみ処理機を活用、3Rを紹介しながら家庭ごみの削減等に努めています」(千葉県 松本定子さん)。など、とてもユニークで為になる発表が相次ぎました。中には、「太陽光発電をつけて家族と一緒にコスト感覚が変わりました。省エネタイプに家電を替え、ゴミの分別も家族みんなですんでいます。地球温暖化防止に、未来のために、役立つこととして、自分にできることから、『守ることから創り出す事』への取り組みを始めています」(熊本県 磯部明智・淳子夫妻)とご夫婦で発表して下さいました。

### ●ソーラー・マイレージデータ中間報告

またセンターからは2月下旬までに地域協議会から提出されたソーラー・マイレージデータ(※)の集計結果が報告されました。実際の活動は今年の1月から開始したため、地域協議会とも、目を見はる程の成果はあがりませんでした。この点は来年度の課題になったといえそうです。

## ■毎週木曜日、ソーラーヘルプデスクを開設しています！

2月より、毎週木曜日、PV-Net事務局内にソーラーヘルプデスクを開設しています。設置のトラブルや発電量への不安、PV健康診断の入力方法など、太陽光発電に関する疑問や悩みは何でも気軽にご相談ください。相談内容は電話・FAX・メールにて承っていますが、事務局までお越し下さっても結構です。ヘルプデスクはPV-Netの主任相談員である國井範彰さんが中心になって対応しています。

### ◎ソーラーヘルプデスク

開設時間：毎週木曜日10時～18時  
場所：PV-Net事務局  
電話：03-5805-3577  
FAX：03-5805-3588  
メール：info@greenenergy.jp

## ■次年度に向けて活動を始動

環境省平成19年度ソーラー・マイレージクラブ事業の公募が5月9日より始まりました。PV-Netは昨年の経験や課題を生かし、さらにステップアップした企画で応募する予定です。採択された際には昨年度同様皆様のご興味とご協力を注いでくださるようお願いいたします。

(事務局 伊藤まき)

(※) ソーラー・マイレージデータとはソーラー・マイレージ事業として環境省が地域協議会へ委託する普及啓発事業において、地域協議会が取り組む普及啓発活動等や、住宅への太陽光発電設備等の省CO<sub>2</sub>設備等の導入により削減できると見込むCO<sub>2</sub>削減量のこと、また実際に活動して削減できたものを指す。

## やっと修了！ というか、あっという間というか…

関西地域交流会として応募したのが2006年10月。採択する旨のメールが届いたのが同年12月末。選定結果通知書到着が2007年2月。そして同年3月24日にはソーラー・マイレージ大イベントなるものが開催され、活動結果を発表すると

いう、「えっ!?!」の連続に振り回されたこの3ヶ月間でした。1年間のプランを、260万円の予算で、3ヶ月間で実行完了するというのです。

ところで関西地域交流会は、資金的なことでも思いとどまっていたプランを、この際思いきって、世話人と会員ともに積極的に動きました。

バス研修旅行では、岐阜のサンヨーソーラーパークへ行きました。バスの中では各々パネル設置にいたる心境・環境についてや、海外とのかかわりから人道支援をしている話など、幅広い交流ができた

した。太陽光パネルとエコワットの貸し出しは、沢山の方からご要望があり、電気を作る楽しみを再認識しました。会員めぐりはネットワークの原点であり、会員と会員をつなぐ旅は、参加者が3人いれば実行しましょう！ という気軽さでやってきました。この企画は皆さんにもお勧めです。会員さんと一度も顔を合わせたことがないというのでは、ネットワークの意義が半減です。

PV-Netとしての資金難の中で、自分たちの活動資金は自前で何とかしたい、という思いで走ってきました。会としてのパイプは、太くなると確信しております。

(関西地域交流会 岸本康子)



サンヨーソーラーパークにて

## ★太陽光発電所所長のつ・ぶ・や・き★

月末から月始めにかけて、PV-Net事務局には毎月の発電量をお知らせ下さるFAX・お手紙が会員の皆さんから届きます。その中には、発電量の感想やシステム不調など、太陽光発電を通して月々に沸いてくる思いを伝えてくださる方がいます。このコーナーでは思わず誰かに伝えたいそんな思いを「発電所長のつぶやき」として掲載していきます。 ※FAXや郵便で発電量をお知らせ下さる方へPV健康診断を同封しています。

### ●平成19年2月(1月分発電量のご連絡)

#### ★M.S(茨城)

昨年12月27日にパネルから送電ケーブルの張替えと、コネクタ内の端子の磨き工事を行った為、発電量が多くなった。

#### ★A.O(愛知)

テレビ愛知、1月30日放送の「ガイアの夜明け」で太陽電池の実力を見て思った事は、もっと設置してみようと思わせる番組であったらと思いました。

#### ★T.H(宮崎)

九州電力に「メーター器の取替を」と言われました。取り付けたメーカーは今はなく、おまけに2年早い更新です。電気工事の方へお願い中ですが、いまいちシステムがわかりません。

### ●平成19年3月(2月分発電量のご連絡)

#### ★M.S(茨城)

2月13日銀行振込により¥11,815(PV-Green販売代金)を受領致しました。ありがとうございました。(交付金)1月27日、全コネクタ内端子の磨き工事とケーブルの保護パイプの再取り付けを行い、一連の工事が完了。工事は無料。

#### ★T.W(東京)

増設効果も当然ながら、好天のおかげで諸表値が向上し、自給率も改善されたのが嬉しい。

### ●平成19年4月(3月分発電量のご連絡)

#### ★T.K(千葉)

例年3月は、推定発電量を下回りますが、今月の396は最高と思われます。パネルの保守、点検皆無……これで、いいのか?

#### E.Y(埼玉)

過去7年間3月期としては最高の発電量でした。

#### ★A.O(愛知)

3月11日は天気がよく、表示部に4.8~4.9と高い数値が出て一時的に発電電力表示ランプが点滅していたので、12日に京セラに連絡して説明してもらい、原因がわかりました。電圧との関係だそうです。

#### ★F.A(埼玉)

3月5日より屋根外装工事のためパワーコンディショナー(以下PC)に異常が発生し、発電がストップした。足場バラシ終了後(3月30日)PCの交換を行う予定であったが、天候・業者の都合で4月5日にPCの交換を行う。



お二人で発表された磯部夫妻

# PVシステム施工品質向上に関する調査報告書

太陽光発電（以下PV）は環境負荷の少ない未来のエネルギーツールとして多くの人の期待が寄せられ、華々しい「善い商品」であるが、2004年度PV-Netが経産省委託を受けて調査した「住宅用PV流通構造調査報告書」では「訪問販売」という独特の世界を通して販売・施工されていることもわかっている。

メンテフリーを売り口上にして販売され、多くのユーザーは疑うことなくお日様任せの運用をしている。実情はそうとばかりいってられない事例が散見される。しかも埋もれたものもあるのではと推測される。問題はシステムの性能、製造に関わるものと施工上のものと2つに分けられる。前者は日本を代表する有力企業のPV製造メーカーの保障対応がある程度可能だが後者はメーカーの管轄を離れて零細な販売施工業者が関わっており十分な体制で施工がなされているかはこれまで不問にされてきた。

個人住宅に30万近いPV設置者が

出現し、その運用の成否が社会的にも大きな問題になる可能性もあり実態を調査し、今後の更なる普及に向けて施工品質について国も見直すこととなった。

見直しのため、2004年12月から新エネルギー財団（NEF）に「学識経験者、関係機関、及び関係団体の代表から構成される「住宅用太陽光発電システム施工品質向上委員会」が設置され、PV-Netもユーザーの立場から参加した。

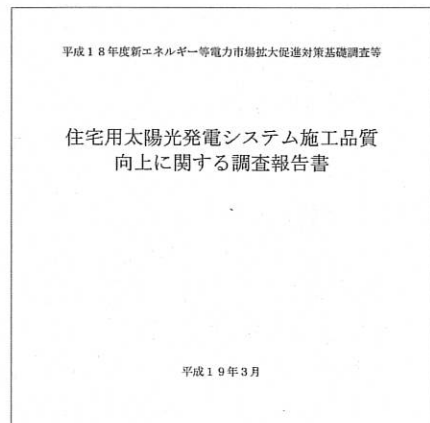
これまでは1995年度に発行された（旧）通商産業省公報「住宅用太陽光発電システムの設置指針」が施工の標準となっていた。しかし、建築基準法などの関連法規規制の改正及び新規制定など、制定当時との違いも生じており現状に適した見直し、「設計施工指針（案）」としてまとめる作業が行われた。

2004年度実情アンケートと現地調査が行われ、PV-Netも調査に協力したが、「住宅用太陽光発電システム施工品質向上に関する調査報告書」としてまとめられている。こ

の調査に基づき設計・施工者育成と技術・技能レベルの維持確認のために資格認証制度が検討された。

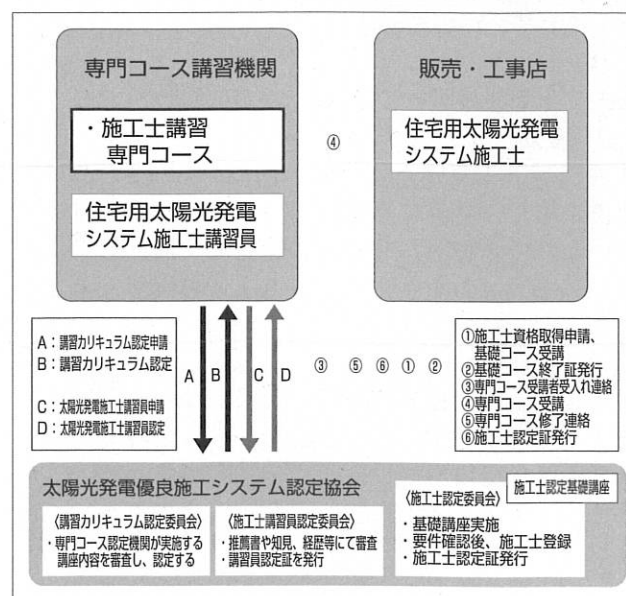
2007年3月に「設計・施工指針」、「施工士認定制度」「優良施工システム認定制度」の各案が報告書としてまとめられ、3月20日にその報告会も持たれた。メーカーだけでなく公正な認証・育成する方向になったことは評価でき、今後実施に移す課題が残されている。報告書等参照希望者は事務局まで連絡を。

（事務局長 都筑 建）

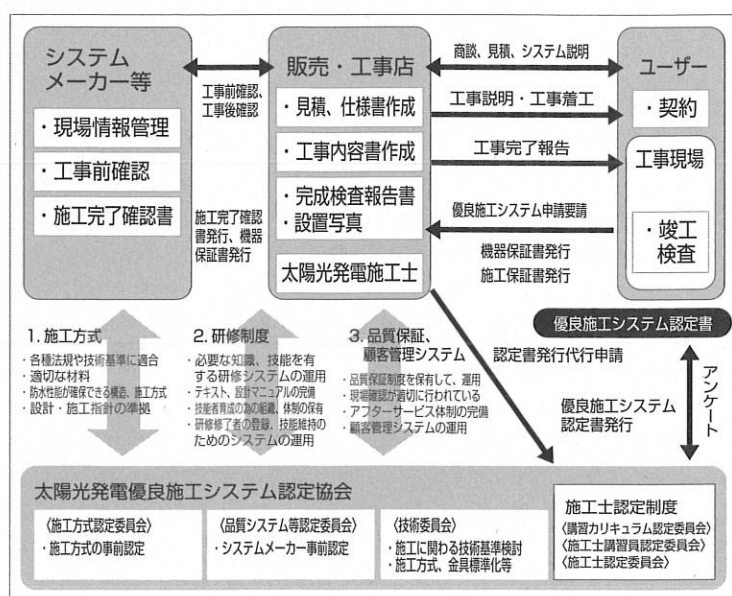


住宅用太陽光発電システム施工品質向上に関する調査報告書

## ●住宅用太陽光発電システム施工士認定制度スキーム図



## ●住宅用太陽光発電システム設置施工システム認定制度スキーム



# 新連載

# PVResQ!

## 準備隊長のつぶやき



みなさんこんにちは。  
『PVResQ! 準備隊』の加藤和彦です。これから本紙面をお借りして、『PVResQ!』や太陽光発電全般に関する話を随筆的に紹介していきます。気楽におつきあいいただければ幸いです。  
さて、まずはこの『PVResQ! 準備隊』について語らねばなりません。

『PVResQ!』とは『PV, Reliable and Sustainable Quality!』を略したもので、太陽光発電に信頼できる持続可能な品質を持たせたいという願いをこめた、本活動の「あだ名」です（発足時は『PV Rescue』でしたが、まだRescueできるレベルではないので改称しました）。具体的に

は、実際の太陽光発電システム（以下、PV）が、それぞれに異なる環境のもとでどのように運用されているのか、また、不具合やトラブルが起きてはいないか、などを調査・分析し、20年といわれているPVの寿命（パワーコンディショナは10年ですが）のさらなる改善に役立てることを目的とした『研究+現場活動』です。

PVは往時に比べかなり安くなりましたが、国民にとってはなお高価な電気製品であり、しかも屋根の上という過酷な環境下で長期間働くことを期待されています。そして、PVは基本的に利用者がスイッチをさわることなく、見えない場所で音も

出さず、動きもせずに日々電力を生み出しています。

確かに、太陽電池の機能は原理的には半永久的といえるでしょう。しかし、工業製品である以上絶対に壊れないともいえません。みなさんのお宅の太陽電池パネルは元気に働いていますか？ 残念ながら、現在はそれを知る安価で有効な手段がありませんし、そもそも現状すら十分に把握されていないのが実情と考えています。

この『PVResQ!』をPVの長期性能改善に反映させ、さらに、実用的なPVの保守技術とその枠組み作りに結びつけること——未来を含めたPVの製造側と利用側との双方に幸福をもたらしたい——その一念だけで活動を続けています（予算と人員の致命的欠乏に日々悶々としておりますが…）。

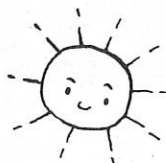
本稿の最後に、この場を借りて、協力に承諾をいただきながらまだ調査や計測に参上していない皆様におわび申し上げます。遅々としながらも進めておりますので、今しばらくご猶予いただきますようお願い申し上げます。



恥ずかしながら拙宅の太陽光発電システム—不具合の有無は筆者にもわからない

## カーボンフリーな暮らしのススメ

～省エネで未来を選び、カーボンから自由になろう～



今年度も【カーボンフリーライフ】をキーワードに、「太陽光発電を通じた省エネ型ライフスタイル普及啓発事業」をパワーアップして展開します。地球環境基金から助成内定を受けました。昨年は太陽光発電所長が実践する、先駆的な省エネ型ライフスタイルについて、目からウロコの多くの知恵を集めました。2年目の今年は情報を発信し、さらに磨きをかけます。

カーボンフリーとは、CO<sub>2</sub>を出さない状態のこと。自らのCO<sub>2</sub>排出を、例えば植林やグリーン電力証書の購入などによって相殺し、カーボンフリー化を宣伝する企業も増えています。

いま、わたしたちの暮らしは、おかねを介在して成り立っていますが、こんな未来があるかもしれません。「カーボン」を介在して成り立つ社会。

いつもの機械的な知らせが、今朝も枕元のカーボンカウンターに届く。「本日の排出可能量は〇〇カーボンgです」。携帯が義務付けられたカーボンカウンターに電波が飛ばされて、マイカーボン口座に〇〇カーボンgが自動加算されている。朝食は国産小麦のパン、高いが美味しい。しかも国産物はカーボンgが小さいので◎。今が旬の地場産のトマトをほおばり、通勤は公共交通利用でカーボンgを節約。

ランチタイムに入るレストランで渡されるメニューにも、kcal表示とカーボンgの併記は当たり前。帰りは、同僚と一杯だけのつもりが盛り上がり、バスの最終便が出てしまった。自家用車で駅まで迎えに来てもらうと、カーボンgがバスの4倍になるので、バスの2倍に抑えられるタクシーで岐路につくことに。

わが家にたどり着くと、「明日も真夏日、紫外線は強め、カーボン指数はやや下がるでしょう」省エネフェアで購入した、ライフサイクルカーボンフリーが売りの最新型テレビから予報が流れる。

一日の終わり、マイカーボン口座をチェック。移動、食事、買い物等で消費したカーボンgは、管理システムにより自動登録され口座から差し引かれている。今日はタクシー利用が続いたのと輸入食材の購入が影響して、口座はマイナスになっている。このままだと来月は、マイカーボン口座がマイナスの者に義務付けられる指定森林の手入れや植樹を手伝うことになる。森での作業は楽しいが、グリーン電力証書を購入して電力をカーボンフリーにするかして、口座をプラスに転じたいが悩ましい。健康カウンセラーに相談してメタボリック症候群の心配は遠のいたが、健康も兼ねて次の休日、カーボンカウンセラー事務所に自転車で行ってみよう……。

地球が減びないために、というよりも人間が生き延びるために、「カーボン排出」規制の中で暮らす未来、個人向けにもカーボンダイエットビジネスがはやるような、「カーボン過排出症候群」に罹った管理社会は窮屈極まりないことでしょう。

“フリー”には、「自由な」「～のない」「～免れた」などの複数の語感があり、カーボンフリーはカーボンニュートラルと同義に使われることが一般的。カーボンフリーな暮らし、には、複雑なシステムに組み込まれて機能している、便利で安定した社会から解放された、自由で新しい暮らし方という意味も含まれるように思います。化石燃料の過剰消費と見えにくいしわ寄せに支えられた社会とは別の未来を管理されなくとも、創造力豊かに自ら選び、創る暮らし。

大規模なエネルギー供給システムと自律的に付き合うことにつながる、太陽光発電。電力代替による直接的な効果だけでなく、ライフスタイルの転換による間接的な省エネ効果を引き出すことによって、暮らしをカーボンフリーにし、自律の積み重ねによって未来を選ぶ市民が増え、豊かな未来を創っていくことをPV-Netは強く後押ししていきます。PV-Netがネットワークであることの意味がここにもあります。

(事務局 手塚智子)

### 大募集！ プロジェクトメンバーとして参加しませんか？

カーボンフリーな暮らしをめざし、実践する太陽光発電所長たちによる省エネの極意をぎゅっと凝縮して伝える活動です。各地で語らい、実践の輪を拡げましょう！ 昨年の成果をベースに展開する今年の活動はこんな感じですよ。

- カーボンフリーライフを伝えるパンフレットの作成・配布：6月～8月
- 各地で出展する環境イベントでカーボンフリーライフ実践講座開催：8月～10月
- 活動の成果を共有する報告イベント開催(2箇所で開催予定)：10～12月

7月初旬に最初の会合を開きます。PV-Net事務局まで、参加のご連絡をお待ちしています。

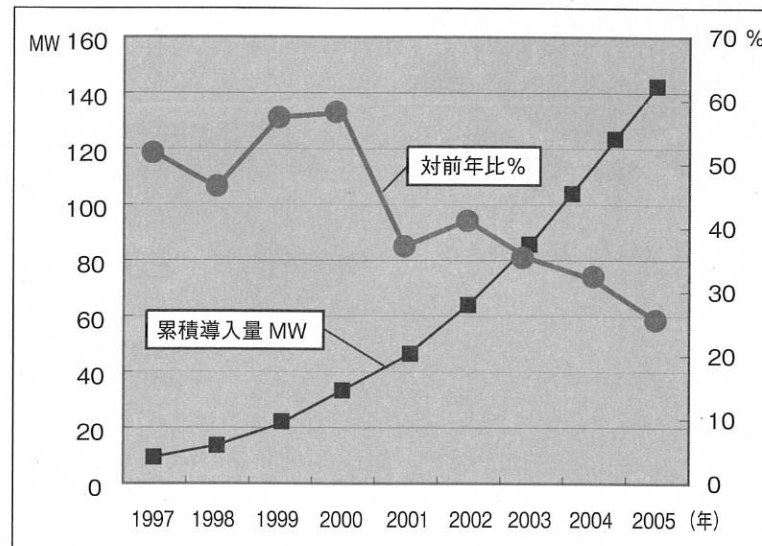
## PV-Netからの政策提言

電気事業者による新エネルギー等の利用に関する特別措置法 事務局長 都筑 建

上記特別措置法(略称RPS法)は、2003年に施工された日本における自然エネルギー(新エネルギー)普及の基本法です。当初より3年後に見直すことになっていました。その検討案が出されたのでPV-Netからも以下のようにパブリックコメントとして提言しました。(提言2)以降は紙面上の都合で割愛しました。(前文を参照されたい方は事務局へお問い合わせください)

→出展1997年～2004年はJPEA資料より。2005年はPVニュース速報値より都筑作成

●国内太陽光発電普及推移



### 〈提言1〉

新エネルギー(自然エネルギー)普及の現状認識を正確に行うべき(理由)

検討案では太陽光発電が着実に進展している、とする認識は正確でない。国として2010年に482万kWの設備設置目標を掲げているが、上図からも明確に解かるとおりに、RPS法が施行された2003年からとって年々対前年伸び率が大幅に鈍化して来ている。とても着実に進展しているとはいえない。2006年以降30%近くの伸び率でないと482万kWの目標には到達しない。

RPS法がわが国全体の太陽光発電普及に寄与していると言い切れないばかりか効果としての実績そのものも上がっていない。実情を正確に認識しその上で政策立案をされるべきである。ちなみに2006年度も年度末直前となっているが、残念ながら単年度の普及量が大幅に落ち込んでいるといわれている。(JPEA統計速報による)

### 〈提言2〉

正確な現状認識の上に、検討案の一次エネルギー供給量が160億kWh(総供給量の1.63%)の低水準でなく普及意欲を起こさせ、波及効果のある大胆な利用目標量を設定すべき。

### 〈提言3〉

自然エネルギー、特に太陽光発電の電力を電力事業者に買取り義務とすることを法制化するべき

### 〈提言4〉

太陽光発電に係るRPS相当量を、他のRPS相当量の実質2倍として取り扱う時期を平成23年度(2011年度)から適用でなく可及的速やかに適用を実施すべき。

### 〈提言5〉

個人住宅設置太陽光発電のグリーン電力証書の取引における計量法適用は適用範囲を定めて適用除外項目とすべき。

### 〈提言6〉

グリーン電力証書の購入費を会計・税制上、費用として認めるように担当部局への強力な働きかけを行うべき。

### 〈提言7〉

RPS相当電力量の環境価値は再生可能エネルギー発電者に帰属することを明確にするべき。

### 〈提言8〉

太陽光発電施工品質向上をより組織的に現場の実情に合った制度として構築するべき。

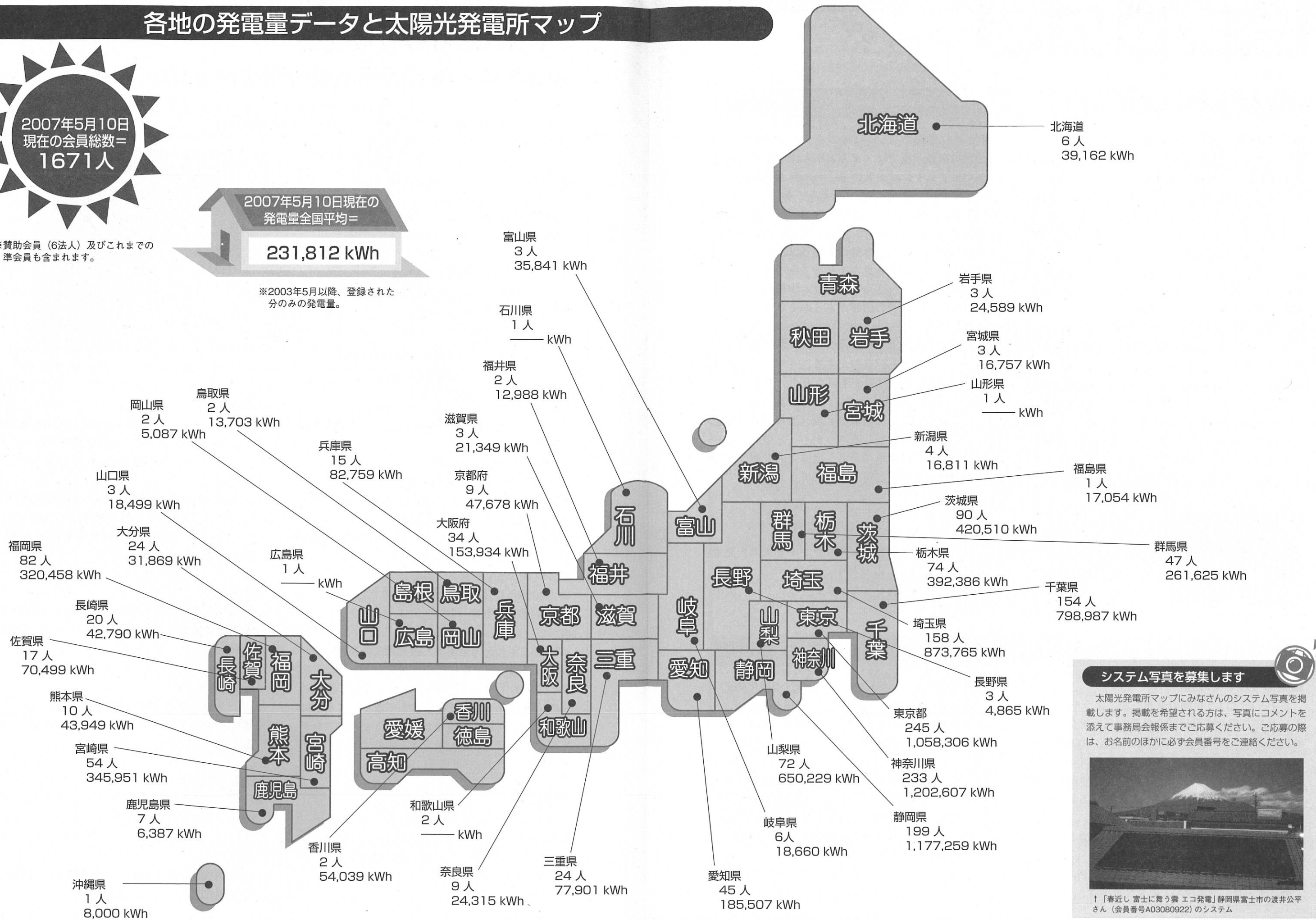
# 各地の発電量データと太陽光発電所マップ



※賛助会員（6法人）及びこれまでの準会員も含まれます。



※2003年5月以降、登録された分のみの発電量。



## システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局会報係までご応募ください。ご応募の際は、お名前のほかに必ず会員番号をご連絡ください。



↑「春近し 富士に舞う雲 エコ発電」静岡県富士市の渡井公平さん（会員番号A03080922）のシステム

## 胸がドキドキ 太陽光発電

【宮城県 小川栄造】

### ■太陽の動きに関心が深まった

横浜から宮城県に移って3年半、田舎生活にも慣れてきた。太陽光発電は稼働以来2年半経過した。最近は毎日の天気が気になりだして、気象「気のあるがままの姿」も毎日記録するし、おかげで太陽の動きにも関心が深まった。原始の生活では太陽と月と仲良くしていたという。暦は「月の満ち欠け」を参考にし、太陽の動きは農業と切ってもきれない。太陽の恵みに感謝し、太陽の動きに胸をドキドキするのは原始のころから共通した感動なのかなと思う。

ダンボールを使って生ごみを堆肥化することも始めた。ダンボール堆肥作りは家庭から出る生ごみを減らすことになり、ひいては地球温暖化を防止することにもつながる。また生ごみを堆肥化して畑に埋めれば有機野菜の一部にもなる。

大げさではあるが、これは「命の循環」を感じることができる。それ以上に毎日ゴミを入れどもダンボールの中身の容積は増えず、どこかに消えてしまうのでまたびっくりである。



我が家の冬水田んぼ 秋分の頃

ミニ冬水田んぼを庭に作った。一年中田んぼに水を溜めることでいろんな生物が生活できる。そこでは最近、ニホンアカガエルが産

卵した。冬場ではツグミやジョウビタキの冬鳥が遊びに来る。夏ではメダカが田んぼを泳ぎ、稲の上ではアカトンボが戯れる。ミニ冬水田んぼにヘイケボタルが舞い飛ぶことを夢みてる。

太陽光発電については光熱費の増減に胸がドキドキするものだ。毎月、電気ご使用のお知らせが検針時回ってくる。今月の光熱費はどうか？ と電気代の差し引きを見るときはドキドキする。4～9月期間に限れば光熱費ゼロも実現したが、冬場の暖房費と積雪の影響があるので年間ではまだまだ。

太陽光発電モニターには日々の発電量以外に環境貢献モニターというのがある。もちろん計算値ではあるがCO<sub>2</sub>削減量が明示される。開始以来の「環境貢献度」が目に見えてわかる仕組みだ。しかし、正直なところ、発電量と較べて日常の実感が無いのだ。何故なんだろうか？ と自問自答してみた。答えは簡単である。実はこの炭酸ガス削減効果は社会的には電力会社にカウントされているのだ。

皆が炭酸ガス削減効果に胸をドキドキさせるためにはどうしたら良いだろうか？

それは「環境貢献」へのカウントを太陽光発電設備設置者自身に取り戻すことだ。そうすれば、光熱費の削減に胸をドキドキさせるように、炭酸ガス削減効果にも胸をときめかすことであろう。

## 特定非営利活動法人持続可能な社会づくりをすすめる会

【新潟県 河辺昌子】

### ■略称 じぞくの会

じぞくの会は2年間の準備を経てようやく2005年10月30日設立、発足時会員数20名、総会出席者数19名委任状1名という好成績でした。2006年2月14日特定非営利活動法人として成立。同年5月21日、平成17年度総会、そして今平成18年度総会準備中。設立記念講演の他にセミナー5回開催、テーマはそれぞれ次ぎのようでした。

記念講演 地球環境問題と持続可能な社会づくりを考える

セミナー1 市民共同発電所の事例報告

セミナー2 ドイツの太陽光発電事情

セミナー3 エネルギー使用と地球温暖化防止

セミナー4 省エネ環境改善の現場から

セミナー5 市民参加のグリーン電力証書

参加者は記念講演27名、セミナー1・21名、同2・12名、同3・14名、同4・14名、同5・17名と右上がりの期待を裏切りました。PR不足というよりPR下手だったのでしょうか。会員数増加もみられず悩みの一つです。悩みの二つ目は市民共同発電所建設をかねながら屋根提供者見つけられず、資金は涙とさえ言えないほどチョボットとしか集まっています。平成19年度はしなびた脳味噌を絞って目標に向かいたいと思っています。

さて前から気になっていることが幾つかありますが、2～3あげてみましょう。

◎その1 実践—1980年代から環境問題の学習会を開いていました。合成洗剤の生体に及ぼす影響を実験していた私は使った後の合成洗剤の水環境に及ぼす影響に驚き、多くの人に知ってもらいたいと思ったのがきっかけでした。水問題のみでなく食、農、プラスチック、フッ素洗口、ごみ問題、エネルギー問題とかかわってきました。参加者は主婦、教師、学生といろいろでしたが、合成洗剤を石鹼に変えとか、添加物の少ない食品購入に気を配るとか、学習したことはすぐ実践していました。今CO<sub>2</sub>削減の必要性はよく理解しているが実際削減に取り組む人は大変少ないです。

◎その2 価値観—何でもお金に換算、「お得です」

が明確になるまで行動できない人のなんと多いことでしょう。

◎その3 バックキャストの視点—1970年代オイルショック時、日本においてもバイオマス燃料の研究がなされ、一部は市場に出すほどになっていたと聞きます。80年代原油価格が下落、バイオマス燃料の研究は中止。30年後原油価格高騰、今又振り出しに戻ってバイオマスの研究が始まりました。70年代からずっと研究を続けてきたスウェーデンでは暖房・輸送・電力の20%がバイオマス燃料で賄われているとか。日本では現在の経済効果のみにこだわり、価値観の変換と併せてバックキャストの視点を欠いた例。政治家は勿論市民全体が近視眼的思考の変換をしなればと考えます。

## これからの農業は発電事業とPVブランド作物で

【大分地域交流会世話人会副代表 木村純一】

### ■大分への移住が設置のきっかけに

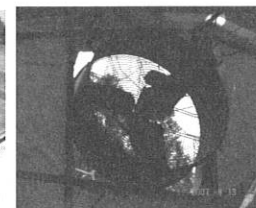
20年ほど前に携わっていた農業関係の仕事の時、栽培ハウスや作業小屋などの電気の供給を太陽光発電で行えないかと考えて、蓄電式の太陽光発電を検討したことがありました。当時は国内のモジュールは非常に高く、輸入品の方が格安になると言われ、こちらで検討していましたが設置するには到りませんでした。その後、しばらくは太陽光発電とは縁がなかったのですが、大分県に移住し椎茸栽培を行うかたわら、キノコ関係の新聞社の手伝いをする中で、あらためて太陽光発電の情報とかかわり、我が家の栽培にも取り入れようと決め、我が家の奥さんには事後承諾のような状況で導入することにしました。

導入した理由の一つに、幸い我が家は台地の上にあり陽当たりが良いこと。次に貧乏人の私でもローンが組め、しかも、保証がつけられるため死亡しても家族には借財にはならない事でした。

当初はできる限り発電量の多いシステムを検討しましたが、敷地のスペースと資金面から現在設置している3.72Kw（パネル24枚）になりました。



我が家の太陽光発電3.72kw



ハウス内の換気扇

私は当初から発電を事業として行なおうと考えていたので、しいたけ栽培で利用できる電気は太陽光から取り入れるが、余った電気は売電することも大きな目的でした。

聞けばドイツでは農家の経営の一つに発電事業を取り入れています。ドイツ経済がEUで統一されたことから農産物も各国から入り、価格は非常に安くなったそうですが、発電事業で助かっているとの事でした。日本の農業もこのようなクリーンなエネルギーの供給基地としての農業が必要だと感じています。特に太陽光発電は高齢者になっても経営でき、メンテナンスも比較的少なく済む格好の事業で、後継者の対策にも大きな力を発揮すると思います。

すなわち、我が家の太陽光発電システムで稼働させている機器はあまり多くありませんが、屋内の照明機器・換気機器・接種時のドリルや包装器などがあります。前述のようにシステムは資産に計上し、減価償却を行っています。すなわち、売電した電気が販売額になり、使った電気は太陽光で発電した形になり、経費には減価償却費のみが計上されています。太陽光で発電された以上の電気を利用した分は家計から支出しています。以前から電気の使用量などは事業と家庭との按分が必須条件だからです。

今後の希望は太陽光発電を通して生産された農産物は「PV-Farm」ブランドとして認められるようなシステムが構築され、全国の統一ブランドになればと思っています。



茨城地域

～茨城会員にアンケートを実施～

PV-Net発足5年目を迎え、組織・運営方針も大きく変貌しようとしている大事な節目にあたり、茨城は会員の意見を汲み上げ、出来るだけ計画に反映させるべく簡単なアンケートを実施した。

◎アンケート項目

- 1) PV活動への参加に対する関心度
- 2) PV発電量記録の熱心度
- 3) 発電設備の稼働状態
- 4) 地域活動に取り上げる希望項目(9項目から複数選択可)
- 5) イベント開催場所の選択について

既に実施して現在集計の途中である。

7月7日に茨城ミニ総会を設定している。その際集計結果を報告し、それを基に参加会員の日ごろのPV活動に対する希望、意見、疑問などを忌憚なく話しあって貰いその中から得られたコンセンサスをベースにして活動を進めたいと考えている。次回会報ではそれらの結果について報告できるものと考えている。

6) PVシステム情報の広報について  
最近、商品購入における契約、解約トラブルのケースとしてPVシステムについてのトラブルを聞いた。某社製3kWシステム設置費用がシステム、工事費込めて370万円の価格とのこと。

先日の基礎講座の講演では平均6803万円/kWとのNEFからの調査報告があった。すなわち3kWで200万円強の価格のはずが見積もりとは言え法外にかけ離れている。一部にこのような異常な価格がまかり通ることはシステム普及上大問題である。PVシステム商品の標準仕様に基づく価格情報を広く国民に積極的に公表し、設置者の関心を高め、購買意欲を昂進させる

ことは国の責任であり、PV-Netの活動テーマの一部であると考えます。上記アンケート回答にも、10年間保障後のシステムの処置方法、次世代製品の性能、価格情報を要望する意見があった。極めて傾聴に値すると考える。

(茨城地域交流会代表 前川淳治)

栃木地域

～世話人交流会の感想～

栃木地域交流会報告に代えて地域固めの第一弾として行った世話人交流会の感想文をお示しします。私たちの活動の一端を知っていたらと思えます。「昨日は本当にお疲れ様でした。私は県北から県南までの旅でしたが、Yさんは一日中車の運転でさぞかしお疲れになったでしょう。お陰様でBさん、Kさん宅の訪問を無事に終えることが出来まして良かったです。懸案になっておりました会計担当もKさんに正式に引き受けていただき安心しました。今回の訪問で栃木交流会の基礎もようやく固まった事になりますね。これからはこの4名をはじめとして基本的な方針を固め世話人・集会に凶って行くことにいたしましょう。それにしましてもお二人とも別な意味で凄い大豪邸にお住まいなのはびっくりいたしました。Bさんのお宅は理想的な二世帯住宅で新築と同時に太陽光のパネルも真南に配置されており、また、ご自身も世界各地でのマラソン大会やウオーキング大会への参加など趣味も存分に楽しまれておられるなど、羨ましい限りでした。また、Kさんのお宅は文化財としての価値があり趣のある古い郵便局の建物に今もお住まいで、最近土蔵の中を整理されておられたら江戸から明治初期に作られたと思われるお雛様人形が見付かったことには驚きました。今回の訪問で見せていただいたのはラッキーでし

た。途中いろいろハプニングもありましたが良い思い出になりました。本当にお世話になりました。」

会員の皆様と共に新生栃木の基礎固めを着実にやり、力をつけて行きたい所存です。

(栃木地域交流会代表 志村三郎)

群馬地域

～今年度もがんばります！～

PV-Netの仲間の皆さん。新緑が目眩しいこの頃。お元気ですか？

PV-Net群馬地域交流会の梅澤です。この会報原稿が皆さんの許に会報という形で届く頃には、PV-Netも新しい年度に突入していることでしょう。

さて、今年度の群馬は何をしますか。一部の熱烈なファン(?)の皆様のためにこっそりと(おおっぴらか?)お教えいたしましょう。

「温泉ツアー」温泉マーク発祥の地。磯部温泉で大交流会、大地の恵み温泉エネルギーを120%充填しましょう。まあ、こればかりだといけませんから、チョットお勉強もしましょ！

他に県内会員相互の親睦を図るために、いろいろな「たくらみ」を考えています。そんなこんなな群馬。怪しさ満点で頑張ろうかな!?

(群馬地域交流会 梅澤耕一郎)

千葉地域

～メンテナンス費用はどれくらい?～

2月10日に「全国エネルギーシンポジウム」(東邦大学理学部)、同11日は「千葉市民活動センター全員集合会いまつり」(千葉中央コミュニティセンター)と2日続けて出展しました。これでこの1年間に予定した活動はすべて消化し、一区切りがついたところです。

ところで、我が家の太陽光発電システムは来年、設置10年を迎え

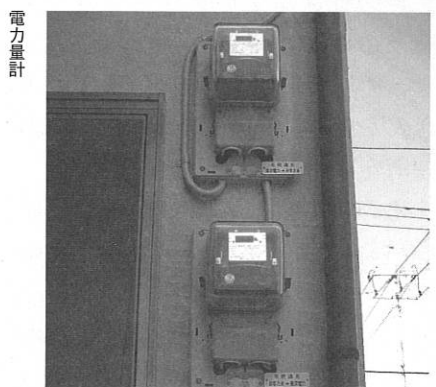
ます。そろそろメンテナンスのことが気になってきました。まずは計量法で10年ごとの取り換えが義務付けられている売電力量計(個人→電力会社の分、買電力量計は電力会社負担)の交換費用です。

次に10年ほどで寿命が来ると言われているパワーコンディショナ(インバータ)の交換(あるいは修理)費用です。いくらぐらいかかるのか知りたいところです。

電力量計は大したことはないと思いますが、パワコンは10数万円すると思われるのでちょっと心配になります(設置当時は1年保証でした)。また、聞くところではパワコンの性能が落ちてくると発電量も落ちてくるとのことです。この1年はPV健康診断結果に注目したいと思います。

最近メーリングリストによる情報交換が停滞していますが、このような情報こそぜひ発信していただきたいと感じています。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)



埼玉地域

～川越市から特別助成を受けられました～

2006年度後半の活動の力点は、地方公共団体とのコラボレーションを中心に展開し、きずなを強固なものにでき、将来の地域活動の方向性を確かなものとする事ができたと自負しています。

特筆すべきは、川越市のさくら堤自治会が自治会館に太陽光発電装置の設置を計画するとの情報を川越市から得て、GIACのグリーン電力基金助成の地域協働プロジェ

クトの応募を手伝いしましたが助成は受けられず、GIAC小野塚事務局長の助言を得て、60万円の一般助成を受けることができました。

しかし、地域協働プロジェクトの場合、自治会負担金のほとんどは0円を予定していたため、自治会の資金に限りがあり一時は太陽光発電装置の設置を諦めかけたが、さくら堤自治会と埼玉地域交流会が協働で川越市に働きかけた結果、市から60万円の特別助成を受けられ、2007年2月24日川越市の関係者やGIAC小野塚事務局長など、多数の参加者を迎えて点灯式が執り行われ、埼玉地域交流会からも多数参加しました。現在、世話人会で新地域代表が選ばれつつあり、来年度はさらに地域に密着した地域活動が展開されようとしています。

(埼玉地域交流会代表 樽谷勇)

東京地域

～大田エコフェスタワンダーランドに参加～

東京地域交流会は2月18日に大田区で開かれた大田エコフェスタワンダーランドに参加しました。

これは毎年、大田区環境課主催で小学校を会場とした環境教育のための催しです。地域の市民団体と企業、そのほか工業高等学校などの協働で今年は区立大森第一小学校でおこなわれました。

PV-Netは「太陽光でドン」を持って参加しましたが、朝からの大雨でパネルは休業となってしまいました。しかし子供たちは自分の力で起したライトの明るさを競って楽しみました。参加した父兄も知識としてはあるものの実際のソーラーパネルを見るのは初めての人が多く、説明を真剣に聞いていました。

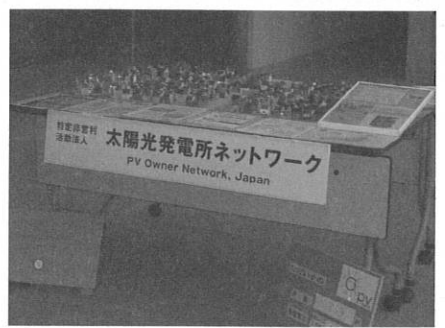
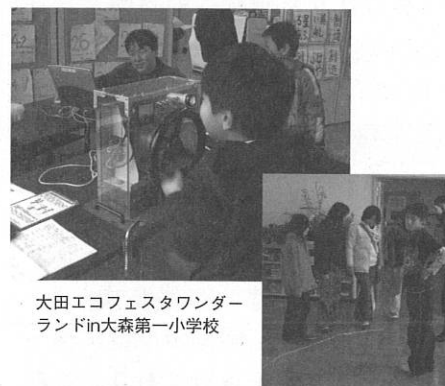
3月3日には大田区の地球温暖化防止対策地域推進計画でシンポジウム・講演会を蒲田地域の緑化・美化を行うNPOの「大田・花とみどりのまちづくり」からの呼び

かけに、「愛・地球博」で作られたおひさま町を展示しました。当日は環境学習発表会の小学生も来場、ソーラータウンに歓声を上げていました。

自治体も環境問題をテーマとした催しが増えています。できることから参加してPVへの認識を深めたいと思います。また、東京地域交流会では、近くにどんな発電所があるのかを知りたいという要求にこたえて、近隣地域のグループ活動を進めております。

現在、国分寺周辺中央線沿線、城南地区の近隣グループがありますが、特に日野市を中心とした近隣グループが活発に活動しております。この集まりの中から八王子市、町田市などにお住まいの方も含め拡大グループの活動も考えに入れております。ボランティアの世話人の活動の中で新しいグループを新規に立ち上げてゆくには時間がかかります。グループ活動に興味をもたれた方は、近くのグループ活動に参加してみませんか。開催に当たってはホームページのカレンダーに掲載しますのでぜひご参加ください。

(東京地域交流会代表 高柳良大)



大田区地球温暖化防止対策地域推進計画シンポジウムにて

● 神奈川地域 ●

～エネルギーアドバイザー事業報告～

神奈川県からの受託事業「18年度新エネルギーアドバイザー事業」について以下の通りご報告します。

1. 実施期間：平成18年10月13日から平成19年3月20日
2. 個別アドバイス・コーディネート実施実績：相談件数11件
3. 説明会等開催実績

◎説明会

- ・平成19年1月28日(日)、ひらつか市民活動センターにて、30名参加
- ・平成19年2月3日(土)、相模原市市民会館にて、30名参加
- ・平成19年2月10日(土)、横浜市開港記念会館にて、28名参加
- ・平成19年3月3日(土)、横須賀市総合福祉会館にて、28名参加

◎イベント出展、参加、開催

- ・平成18年10月21, 22日(土、日)、アジェンダの日2006、約3,000名参加
- ・平成18年12月17日(日)、温暖化防止の集い、参加人数不明
- ・平成19年2月10日(土)、PV-Netフォーラム神奈川、58名参加

初めての経験でしたが、貴重な体験は次なる飛躍への基礎となりました。また、市民が望んでいる情報の抽出と、それを易しく解説する資料作成と説明スキルの重要性を強く認識しました。事業PRの効果的なツールは自治体広報、マスメディアであり、電子媒体、チラシはそれに劣るよう感じました。設置希望者は、個々の事情に合った的確な情報を求めており、この意味では設置事業者との連携が重要だと感じました。

(神奈川地域交流会代表 野村安子)



説明会の様子

● 山梨地域 ●

～地域会員数の増加状況について～

山梨地域交流会では、会員拡大に努めて来ました。昨年度は目標会員数には遠く及びませんでした。一昨年に引き続いて会員数を増加させることが出来ました。

過去2年間の会員数の推移です。

- ・2005年5月・36名
- ・2006年5月・57名・21名増加
- ・2007年5月・72名・15名増加

山梨地域交流会では、昨年は、設置事業者が会員拡大に大きく寄与しています。新規設置者を会員として勧誘して頂きました。

グリーン電力基金の助成金を頂いて、公民館に太陽光発電を設置しましたが、安価で良心的な工事も行なってもらいました。また太陽光発電設置希望者から「設置事業者を照会してほしい」という依頼もありました。

今後の課題ですが、入会されても継続的に会員でいて頂く事が困難になって来ています。会員としてのメリットが感じられないからだと思えます。今後は、PV健康診断の入力方法の講習会を開催したり、入力サービスを強化することも検討しています。またPV-Green事業への参加も推進して行きます。それらにより、会員の定着率を高めて行きたいと考えています。

また、今年度のイベントとしては、昨年設置した太陽光発電所の見学会を開催する予定です。あわせて小水力発電所の見学も行ないます。

(山梨地域交流会代表 大友 哲)



1月13日の太陽光発電所点灯式

● 静岡地域 ●

～PV-Green説明会開催～

静岡地域交流会は、4月7日(土)袋井市(谷口建材様のご協力によりひまわりランドにて開催)、4月15日(日)静岡市の2箇所PV-Greenの説明会を行いました。

静岡交流会の世話人である松岡廣伸さんからPV-Greenの説明と質疑応答、PV-Netの紹介と質疑応答がなされ、PV-GreenもPV-Netも知っていただくことが第一のスタンスでお話をしてくださいました。続いてオール電化住宅と省エネの話と電子点灯管とエコキュートの説明もありました。

4月15日(日)は『発電貯金ならほっといてもお金が貯まる』の著者である(株)発電マン岩堀良弘代表のご協力により、静岡市アイセル21で開催されました。岩堀さんから「楽しい！太陽光発電システム」の様々な価値”で講演をして頂き、次に静岡市役所環境局調整室次長海野剛幹さんからグリーン電力静岡市の取り組みについての話があり、PV-Net 静岡交流会、高田泰久さんからPV-Green事業についての説明をして頂きました。

その後の質疑応答では、環境価値への理解・グリーン電力証書の需要と供給、PV-Net・PV-Green加入のメリット等白熱したやり取りもありました。

PV-NetおよびPV-Greenを広く知っていただき 会員が増えることを期待したいです。

(静岡交流会副代表 田中東紀男)



説明会の様子

● 中部地域 ●

～PVについての勉強会を開催～

昨年から、PV-Netの全国的展開にあわせて、各地方のブロックや支部の会員拡大や独自財政の確立が急務となっており、中部交流会の区域でも、その取り組みを強めています。そのなかで各会員のPVについての知識や運動の内容、その意義などを自信を持って入会勧誘時に話すことがむずかしく、なかなか納得してもらえないという悩みがいくつも出されます。

そこで当交流会では世話人会のたびごとに、PVの基本やPV-Netの運動に重要と思われる問題やテーマについて勉強しあうこととし、順次報告者を決めて報告をし、それをめぐって話し合いをすることとしました。

第1回は4月12日、藤田会員がPV-Netニュースの第6号掲載の黒川浩助氏の「21世紀人類のための太陽光発電」の紹介がおこなわれ、太陽光発電の持つ人類史的な意味とPVについての基本的性格などについてのわかりやすい解説を聞き、大いに勉強会の意義を感じました。

第2回は、6月7日の世話人会のなかで、RPS法見直し(案)にたいするPVネットのパブリックコメントについて、野原会員の報告を中心に討論する予定。

(中部交流会代表 野原敏雄)

● 関西地域 ●

～ポストルック その後～

思いもよらない展開でPV-netの世話人となり、「兵庫フォーラム立ち上げの案内状」を100部あまり届けての出発となりました。

100軒の太陽光発電所の確認は、氏名の不明、住所の不明、対話の不足を伴ったもので、今後の整備が求められる内容となっています。

世話人の活動として、11月に行政の「温暖化防止活動推進委員」

に登録し、遅まきながらいろいろなセミナーに参加してきました。参加するようになって、セミナーの多さに驚くと共に、組織の多さにも驚きました。まるで温暖化防止組織のジャングルの中にいるようで、全体が見えません。しばらくはこのジャングルの中で格闘することになりそうです。

さて、ポストルック活動にアイデアを求めたいと思います。私は他市や他県へ行ったときも、瞬時に「発電所探し」に使っています。文字通り『一期一会』の瞬時の出会いです。住所も、氏名も不明の家にPV-netの存在を伝える1通の封筒に貼る短文。1度の人、2度の人、3度になる人…。

皆さんと一緒に届けたいと思いますので宜しくお願いします。

(関西地域交流会 野村光正)

● 佐賀地域 ●

～発足から1年が経過～

私たち佐賀地域交流会はPV-Net本部事務局の方々の強力なバックアップをいただき昨年の春スタートし、はや1年が経過しようとしています。

また昨年夏から佐賀県はグリーン電力証書の取り引きを介して太陽光発電設備設置者に補助をする佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業を新たに立ち上げ、その平成18年度事業委託をPV-Netが受けられました。この事業に係る業務は応募要項の作成にはじまり受付等申請者への対応、各種相談へ



セミナー「環境問題と太陽光発電」での様子

の対応など数限りなく、直近では4月28日に申請者対象のセミナー「環境問題と太陽光発電」がありました。この状況に対応するためPV-Netでは佐賀事務所を設置、事務担当として中山晴美さんが専属で頑張っておられます。更に事務が集中するときは長崎県から都筑修三さんが応援に来ておられました。

また今年4月からは陸暁鷗さんも事務担当としておいでになるようになりました。事務所で仕事をしておられる方々はとても大変のようですが、私たち佐賀地域交流会の会員にとっては事務所があるということでもあり、ありがたいことです。佐賀地域交流会は発足直後ということでもとても非力ですが、できうるかぎりこの事業の推進に協力していかねばと思っております。

このような状況なので佐賀地域交流会の会員の方々には佐賀県太陽光発電トップランナー推進事業への協力をお願いするだけで発足1年が過ぎてしまいました。会員の方々の交流をいかにしたら深めていくことができるかが今年の課題といえます。

(佐賀地域交流会代表 西森秀夫)

● 九州地域 ●

～メーリングリスト立ち上げと初のテレビ会議～

九州の地域交流会は現在佐賀・宮崎・長崎・熊本・大分・鹿児島6つありますが、関東のように一地域の会員数が多くなく、40名を越える正式の地域交流会は宮崎1県のみです(近々福岡地域交流会が立ち上げれば2県となります)。そのため今の時点では県単位ではなく九州全体でできるだけ一体となって活動し、すそ野を広げていきたいと考えています。さいわい九州のPV-Net会員の多くは再

生可能エネルギー推進市民フォーラム西日本による太陽光発電設置助成を受けた以前からの仲間が多く、協力関係が容易に築ける状況にあります。

顔見知りとはいえ、一体となって協力するためには情報を共有し、できるだけ頻りに顔を合わせる必要があります。昨年4月の九州地域(広域)交流会の立ち上げ以来いまひとつ情報が伝わらない反省があり、3月18日に開いた世話人会では「いかに情報を伝え、意見を交えるか」に絞って話し合いました。

県毎にさまざまな事情があり、メールを使う方・ファックスを愛用される方が混在していますが、結局各県の県代表または情報担当者ひとりと事務局(全国・九州)が



テレビ会議中の九州事務局中山さん

参加する九州地域(広域)メーリングリストをつくること、もうひとつはインターネットを活用したテレビ会議を試験的に運用してみようとなりました。メールで情報を速やかに共有し、意見交換やニュースを伝えるためにテレビ会議を活用していこうということです。

東京と九州の事務局の支援で4月2日にはメーリングリストが開設され、同27日には九州内4ヶ所と東京の事務局が参加して初のテレビ会議を試行しました。テレビ会議の評判は上々で十分実用に耐えるものです。自宅にいながら世話人会に参加することもできるだろうと期待しています。これからは情報の速やかな伝達と意思疎通の手段として、メーリングリストとテレビ会議を大いに活用していくつもりです。

(九州地域交流会副代表 福田 精二)

-宮崎地域-

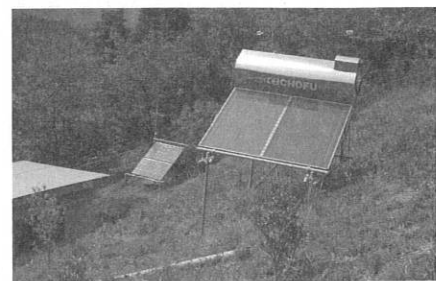
~太陽の恵みと廃品利用~

太陽光エネルギーのすばらしさは皆さんご存知の通りですが、太陽光発生電力を系統連結(太陽光発

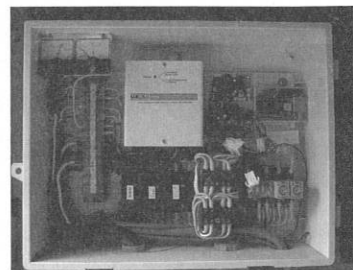
電を電力会社と接続)している人がほとんどではないでしょうか。

電力会社の配電線から遠く離れた山間地で家電品を利用したい時の独立型を紹介いたします。

太陽光パネルは2枚(252W)、MSE蓄電池200Ah24V(業務用で使用していた撤去品)、充放電制御器は自作、インバータ既製品購入(入力直流24V、出力交流100V、1500W)負荷は山小屋の照明、雨水加圧ポンプ、テレビ、冷蔵庫、扇風機で配線しました。(家電品は結婚する男性から無料でいただきました)。



温水器と太陽光パネル



充放電制御器

◎事務局よりご報告

会員の方々には薄々感じておられたかも知れませんが、寡て会の内部に一時的とはいえ不協和音が発生し、スムーズな会の運営が危ぶまれる時期がありました。こうした状況の放置は、その後の会の円滑な運営・進展に支障をきたすとの考えのもと、その修復に少なからざる精力を傾注した結果、幸いにも正常化が成って、多くの会員の方々の懸念を払拭するに足る左記の文面をその証として示せる健全な状況に戻すことができました。

これも一依に会員の方々の寛容な心遣いと温かいご支援があればこそその結果であり、慈に改めて感謝の意を表すると共に、今後こうした事態が再発せぬよう、これを一つの教訓として互に心して事に当たってける環境づくりが切に望まれるところです。今後とも、皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、左記の納富氏は、本謝罪文の会報掲載に同意していると同時に、07年4月6日付けで退会となっています。

謝罪文

NPO法人 太陽光発電所ネットワーク 御中  
事務局 都筑 建棟

平成19年4月6日

私納富信也は、PVネット運営方針に関し、都筑事務局を誹謗中傷する内容を含むEメールを平成18年3月28日に当会会員へ送り、かつ、同Eメールは、一定の会員に伝播する可能性のあるものでした。

その誹謗中傷の事実には裏付けられないものがあり、都筑事務局を侮辱し、また、名誉を毀損し、それにより、PVネットの運営に一定の混乱を生じさせたことに対して、お詫び致します。

住所 (略)  
氏名 納富信也 (印)

気になる発生電力量のことですが積算電力量計で毎月記録を取りました。最大発生電力量が7月に17KWh、最低が1月5KWhと差はありましたが年間発生電力量119KWhでした。1日平均326Whですが消費電力は、ほとんどが冷蔵庫です。効率を無視し単純計算をすると1日約1時間20分しか発電していないことになります。

太陽光発電の稼働率が悪いのは、間欠的に冷蔵庫が動作し、昼間停止中は蓄電池電圧がフローティング電圧に上昇して、ほとんど充電していない状態です。蓄電池劣化防止のため完全放電周期電圧まで利用せず、残容量20パーセントでインバータをカットしています。

太陽光発電稼働率を上げるには、蓄電池容量を大きくするか、昼間帯に常時利用できる負荷があればいいのですが思案中です。

(宮崎地域交流会 小川泰美)

-大分地域-

~研修申し込み会開催~

大分地域交流会(代表=足立文子

氏)では、総会と第2回の研修会を6月3日に、大分市府内町のコンパルホールで開催の予定です。

内容としては今年度の事業計画や、一昨年から始まっている自家消費された太陽光発電の電力を証書化し販売する「PV-Green事業」の意義とメリットについて研修し、希望者には参加予約申し込みを頂き、改めて申し込み会を開催する予定です。

(大分地域交流会 木村絢一)

-福岡地域-

~福岡の現状とこれから~

九州のPV-Net会員は現在、約200名。そのうちの3分の1強に当たる約80名は福岡県在住者が占めていますが、その福岡には未だ地域交流会がなく、九州8県(沖縄を含め)で地域交流会が設立されているのは、宮崎と佐賀のわずか2県に過ぎません。

実は、今年3月初旬に日時を設定し、「福岡地域交流会設立フォーラム」の開催を年初より準備していたのですが、予期せぬ難問に突き

当たり、延期せざるを得なくなりました。

しかし、予期せぬ難問に気が取られてばかりはおれません。会員の拡大⇒NGOとしての自立性の確保、あるいは佐賀県トップランナー事業のサポート体制確立のためにも、人口・会員規模において九州では抜きん出た存在である福岡での地域交流会設立は急がねばなりません。

私案ではありますが、5月の連休明けから、7月もしくは8月に焦点を当てた、設立フォーラム開催準備を再開したいと考えています。会員各位のお知恵を拝借しながら。

(福岡地域交流会準備会代表 松隈 一輝)



雲南エコツアーの様子

PV-Net川柳は、12回目を迎えました。

会報「PV-Net News」で順調に育まれてきたこの欄も、曲がり角にきたたのでしようか。今回は会員の皆さまからの応募はありませんでした。この欄を絶やさないためにも、責任を取って、傑作? を披露します。

- ① 日射量 増えて核も 春爛漫
- ② 屋根上が 地球環境 守る基地
- ③ 広げよう 北から南 PV-Net

今年、更に温暖化のためか桜前線が混戦模様でした。ソメイヨシノの開花日が一番早かったのが、東京だった。実際3月の発電量は多かった。

- ④ 雨の日も 気になる屋根の発電量
- ⑤ 最近バイオエタノールのた

めに、トウモロコシが値上がりして、これを主食としている人々が困っているというニュースがあったが、太陽光はこういう心配は入らないだろうか。

- ③ PV-Netも、昨年から全国展開した。新しい仲間も着実に増えている。しかし、仲間がいない空白の地域もある。青森、秋田、島根、徳島、愛媛、高知の6県である。何時の日にも全国を網羅できるのだろうか。

PV-Net川柳には、わずかしい講釈は不要です。広い意味で、太陽光発電に関わることを五七五調で詠んだものなら、それでいいのです。季語のない俳句です。

次回は、是非このコーナーで、あなたの川柳とお会いしたいですね。川柳は、ハガキ、Eメールで事務局までお願いします。(担当:普及広報部 松田廣行)

2006年度第5回理事会

- 日時：4月7日(土) 14:00~17:00
- 場所：湯島総合センター
- 参加者：理事13名、事務局2名、オブザーバー5名

財政計画の基盤整備のため、年会費徴収を年1回にする財政部提案(3/25拡大三役会議にて承認済)が今理事会にて追認されました。

また、前理事会で検討された理事推薦の考え方を基に具体的な推薦方法が確認されました。

- 1) 理事候補は地域・部会よりバランス良く選出する。
- 2) 地域理事は地域ブロック(関東・中部・関西・九州)から原則1名(目安としてブロック内の会員200名程度に1人)以上を、部会理事は各部1名を選出する。
- 3) 自薦他薦を問わず候補を募集し、人数が多い時は三役会にて調整を行う。理事候補は会全体の発展を考慮する視点をもつ必要があることが三役より説明されました。

検討事項として、総会に向けて、会運営の現状に即した定款改訂案が出されました。同じく議案書案作成のため、各地・部会から活動報告・新活動計画案資料が提出され、部会からは、地域活動の重点課題として取り組みを期待する方針が伝えられました。

**組織部**：会員拡大を基本に据えた活動を行うため、世話人会では随時会員拡大を議題としてとりあげてほしい。会員拡大目標数の設定、ポストイン・ルック活動への積極的な取り組み、退会者を減らす為の方策の検討・実施をお願いします。

**相談室**：相談事業をすすめ、PV健康診断の充実を図っていく。地域での相談事業受託を積極的にすすめてほしい、必要な場合は相談室にて積極的な協力を行う。

**普及広報部**：環境イベント等への積極的な出展やマスコミの活用を行ってほしい。部としては各面からフォローしていく。

**財政部**：ボランティア保険の更新、イベント開催時の実費(会場代・資料代)回収を実施してほしい。

**PV-Green事業部**：PV-Green電力証書の販売に力を入れていくので地域の協力もお願いする。

新年度の予算案が財政部より提出され、総会資料として議案書案に入れ込むことが伝えられました。

報告事項としては、三役より、前栃木代表が前年度に事務局長に対して行った人権侵害を認め、謝罪文が届いた事、有志会員(匿名)より申し出のあった融資を受ける事が伝えられ、会として提出したRPS法へのパブリックコメントの内容解説がありました。財政部からは前理事会に引き続き地域にて助成金・委託事業を申請する際は10%以上の一般管理費計上や地域活動を通じた収入増のお願い、地域会計報告の提出期日厳守のお願いがありました。普及広報部からは会報への広告掲載の継続、各地域保有のイベントツールのライブラリー化、基礎講座の開催等が報告されました。

(事務局 伊藤まき)

普及広報部

年度末を迎え、次年度の活動方針について検討しました。

- (1) 会員と会との間の情報交流の活性化
  - ① 会報の発行→広告収入を増やし、年4回の発行を目指す(予算的には年3回を計上)
  - ② ホームページの活用と管理→懸案事項の会員マップの改善およびWebのリニューアル、データベースの整備。

(2) 会員拡大を視野に入れた活動の展開と知名度向上を図る。

① 外部イベントへの出展、参加→エコプロダクツ(東京および関西地区)やライフスタイルフォーラムなど。

PV-Netの知名度向上を図るため、マスコミへの積極的な情報開示をする。また、会員拡大に、太陽光発電の次世代型への取り組み方法を模索する。

(3) 全国的組織を意識した活動の展開

今までに蓄積したノウハウなど地方新組織に提供し、主催および外部イベントへの実施を支援する。また、イベント用ツールの相互活用を勧めるため、ホームページにツールリストを開示する。TV会議システムの活用を推進する。

また、太陽光発電基礎講座を東京大学弥生講堂(一条ホール)で実施しました。詳細は次号をお楽しみに。

(普及広報部 松田廣行)

財政部

太陽光発電所ネットワークは発足以来5年目を迎えます。2006年度は大きな変革がありました。全国的なNPOとして、公益的な活動をしてゆく立場を得、現実面としては大きな寄付金を財源として活動をしていた状況からの自立という節目の年でもありました。一企業からの大型寄付終了は昨今の時節柄ということもありますが、市民の活動としての必然的な成り行きであったと思います。2006年度は過渡期のため、特に助成金などによる活動と会計上の決済時期のずれが生じたことで、昨秋には会員の皆さまに寄付をお願いいたしました。そのお願いに対して大きなご寄付を頂きまことに感謝をいたしております。次年度も引き続き委託事業などを受けることや、協賛金、広告などもおねがいします

が、本来は会員の皆さまからの会費収入で活動を成り立たせて行くことが筋道であると思います。

また現実的な問題ではありますが、4年間の実務上、現在5月・11月の二期の会費納入の時期を一期にするなど再検討して整理することも必要な時期に来ているのではないかと思います。今後とも皆さまのご理解、ご協力のほどよろしくお願いたします。

(財政部座長 関沢ひろみ)

相談室

毎週木曜日 常設相談窓口を開設

相談室では、2月からPV-Netが環境省から受託している「ソーラーマイレージ事業」の一部の「ソーラーヘルプデスク(相談窓口)」を開設し、その旨を環境省ソーラーマイレージ事業ホームページに掲載しました。毎週木曜日、常駐者を置くことからスタート(10時~18時)。現在のところまだ木曜日に相談が集中することはなく、その週に寄せられた質問や相談を木曜日にまとめて、Fax、Eメール、電話で処理しています。まだ充分広報が行き届いていないようですが、ソーラーマイレージ地域協議会等を通じて順次普及していくものと思われます。もちろん会員からの質問、相談にも対応しますので、是非活用下さい。相談等のボリュームが増えれば開設日を増したり、担当者を多くするなど走りながら対応の工夫をしていきます。

一方、PV-Net各地域交流会でも独自で獲得された委託事業のなかで相談活動を展開して頂いている事例があります。それぞれの地域での活動に有効に使っていただくとともに、ソーラーヘルプデスクへ振って頂いても結構です。

前回、会報発送時から始めました、PV健康診断に対する診断コメントの送付は、コメントにより故障の予告を行ったことにより、メーカーによる調査結果、モジュールの交換に

まで進み、想定外の成果がでた事例もありました。今後も更に日常活動を充実させる工夫もしていきます。

(相談室座長 國井範彰)

PV-Green事業部

佐賀のPVトップランナー事業の書類づくり、グリーン電力認証機構への申請と意見具申、アースデイにおけるユニテッドアローズ社のグリーン化企画、丸の内イルミネーション市民参加グリーン電力証書企画とライブ出演、四国経産局の環境フェア企画、など目白押しの作業が続いています。

本格的な普及(営業)のための営業パーソンの募集、企業・団体向けのパンフレットづくりも印刷段階となっています。PV-Greenのためのホームページや1000名を越える申請者を管理するデータベースの整備などに取り組んでいます。

計量法はすでに設置したPV設置者の権利を奪うもので、そのための運動が緊急に成っています。

(事務局 都筑 建)

組織部

2500名組織の早期実現を!

この1年、九州の各地では地域交流会旗揚げを目指した活動の中で、92名から211名へ倍化を達成しました。

中部も47名から79名へ29名の増加、関西は52名から69名へ17名が増加しています。

しかし、関東では山梨・静岡を除いて始めて減少現象に陥りました。結成以来丸3年が過ぎて会費納入が滞り自然退会になった人が91名に対し、新たな会員加入は58名、都合33名が減少しました。

その他地域を加えた現在員は1643名、2500名目標には遠い状況にあります。(2007年4月7日時点)

地域活動の再点検を!

関東でのマイナス現象は何故起きたのでしょうか。

私たちの活動がマンネリに陥っている事は無いか。「拡大はもう頭打ちで無理だ」と拡大への意欲を欠いていることは無いか。この会を結成した当時のあの情熱を失っていないか。もう1度初心に帰って謙虚に見つめなおす事が求められているように思います。それぞれの地域でしっかり分析しようではありませんか。

PV設置者を把握しよう

私たちが新しいPV設置者を把握する方法は、今までの経験からいって……

- (1) 補助金を支給している自治体の協力を得る
- (2) 設置業者の協力を得る
- (3) 足を使ってポストイン活動をする

この3つが効率的な要素であったのですが、(1)の自治体は個人情報問題と補助打ち切りなどでのぞめない状況にあります。(2)は大きな力になります。静岡では業者の協力で2回PVグリーン説明会を開催し、一気に16名(編集者の方へ確定数ではありません)が入会しています。(3)のポストインはこれも有効な活動です。残念ながらまだほんの少数の活動に留まっていますが、これが100名~200名の方がこの活動に参加したならそれはすごいことになるはずですよ。

会員の皆さん、ご近所のPV設置者のお名前・住所を事務局に連絡してください。1軒でも2軒でも結構です。また、会への「呼びかけチラシ」など必要部数を請求してください。是非お願いします。

(組織部座長 田中東紀男)

☀️ **ご寄付、どうもありがとうございました！**

～ご寄付にご協力下さった皆さま（敬称略・順不同）～

榎本しづ子 櫻井一郎 清水紘司 藤田邦彦 佐藤史子 熊木昭男 柳瀬仁茂  
秋山真紗代 小関光二 今野一 畑山茂 野原敏雄 塚原安夫 佐藤俊夫 番  
場祥充 坂本勇夫 宮崎英昭 清水勉 和地英明 福田精二 匿名（1名）か  
らご寄付を頂きました。

活動へのご理解とご支援に厚く感謝申し上げます。

☀️ **重要なお知らせ**

～年会費の納入時期が年1回（5月末）になります～

入会した時期に応じて年2回（5月、11月）に分かれていた会費納入月が、  
新年度（2007年5月）より年1回（毎年5月）へ統合されます。

納入時期を年1回とすることで、お支払い頂いた会費の年度をわかりやすく  
するとともに、財政基盤の強化（会費収入の安定）や、活動の活性化へつなげ  
ていきます。今までで会費納入月が11月であった皆さんには、会費を前倒しでお  
支払いいただくこととなりますが、何卒ご理解、ご協力を頂きますよう直しく  
お願い申し上げます（同封の送付状をご覧ください）。自動払込申込者の方の対  
応は来年度からとなります。また、会費納入時期の統一に伴い、新年度より入  
会された方の会費制度も変わりますので、ご注意ください。

| 郵便振替       | 会費納入時期       | 5月末     | 11月末      | 会費年度     |
|------------|--------------|---------|-----------|----------|
|            | 旧年度(2006年)まで | 2006年5月 | 2006年度11月 | 2006年度会費 |
| 新年度(2007年) | 2007年5月      |         | 2007年度会費  |          |

● **会費の自動払込をお申込頂いている皆さま**

2007年度は旧年度と同様月のお取り扱いとなりますが、2008年度より毎年5月の  
引落になりますので、ご準備をお願いいたします。

| 自動払込   | 会費引落月   | 5月末     | 11月末     | 会費年度     |
|--------|---------|---------|----------|----------|
|        | 2007年度  | 2007年5月 | 2007年11月 | 2007年度会費 |
| 2008年度 | 2008年5月 |         | 2008年度会費 |          |

● **新規会員の会費制度（新年度）**

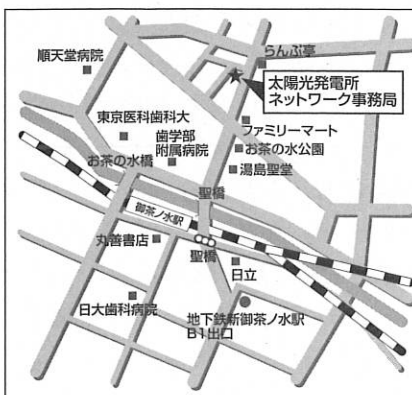
初年度……………入会金3,000円（初年度のみ ※年会費は不要）  
次年度以降……………年会費3,000円（入会の翌年度から発生 支払時期は5月末）

ペンギンのはばたき

◆ラジオと電話（受け専用）のみの原始的  
生活から一転、ついにパソコン・デジ  
タム・電気ポット（ついでに新聞）を導  
入しました。情報を手軽に入手できれば  
時間が節約できるかな？との期待に反し、  
物や情報が少ない方が、ゆっくりとした  
時間を過ごせていたような気がします  
（今はもう遅し）。(い)  
◆快晴の土曜日、近所の湯島聖堂を初め

て訪れました。事務所の引越しからちよ  
うど1年、日々すぐ横を通っていたのに、  
こんなに静寂で気持ちの良い空間があっ  
たとは。孔子にゆかりの場所であること  
もはじめて知りました（手）  
◆財政の自立の目処が少し付きました。  
対社会的にも胸を張れます。PV-Greenの  
証書販売も含めて、引き続き皆様の協力  
をお願いします。（都）

Editor's Notes



特定非営利活動法人  
**太陽光発電所ネットワーク** (略称: PV-Net)  
〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-10  
湯島ビル202号室

〈交通のご案内〉

- ① JR / 地下鉄御茶ノ水駅「聖橋口（秋葉原  
駅側）」より徒歩5分
  - ② 地下鉄新御茶ノ水駅「B1出口」より  
徒歩5分
- TEL 03-5805-3577  
FAX 03-5805-3588  
URL : www.greenenergy.jp  
E-mail : info@greenenergy.jp

(2007年2月)

- 3日 埼玉地域交流会世話人会  
ソーラー発電なんでも相談会inさがみはら  
(神奈川地域交流会) 後援: 相模原市、藤沢市
- 4日 栃木地域交流会世話人会
- 8日 神奈川地域交流会世話人会
- 10日 ソーラー発電なんでも相談会 & フォーラムin  
よこはま (神奈川地域交流会)  
後援: 横浜市環境創造局、藤沢市  
東邦大学「全国エネルギーシンポジウム」出展  
(千葉地域交流会)  
茨城地域交流会世話人会
- 11日 「千葉市民活動センター全員集合会いまつり」  
出展 (千葉地域交流会)
- 12日 静岡地域交流会 世話人会
- 17日 掛川市環境を考える市民の集いへ出展・参加  
(静岡地域交流会)
- 18日 エコフェスタワンダーランドin大森第一小学校  
地域から考える地球の未来 (東京地域交流会)
- 20日 佐賀地域交流会世話人会
- 25日 サンヨーソーラーアーク (岐阜県) と琵琶湖博  
物館(滋賀県草津)見学バス旅行  
(関西地域交流会)

(3月)

- 3日 埼玉地域交流会世話人会  
「どうする地球温暖化」みどりある暮らしと  
地球にやさしいライフスタイル出展  
(東京地域交流会)  
ソーラー発電なんでも相談会inよこすか  
(神奈川地域交流会) 後援: 相模原市、藤沢市  
東京地域世話人会
- 7日 東京地域世話人会
- 8日 神奈川地域交流会世話人会
- 10日 千葉地域世話人会
- 13日 PV-Green事業部会
- 21日 フォーラム「今なぜ太陽光発電なの？パート3」  
(関西地域交流会)
- 28日 静岡地域交流会世話人会
- 29日 佐賀地域交流会世話人会

(4月)

- 2日 普及広報部会
- 4日 PV-Green事業部会
- 7日 埼玉地域交流会世話人会  
第5回理事会  
PV-Green (太陽のグリーン電力証書) 説明会  
(静岡地域交流会)
- 12日 神奈川地域交流会世話人会  
中部地域交流会世話人会
- 14日 埼玉地域PV-Netフォーラム  
東京地域交流会、日野近隣グループ集會  
千葉地域交流会世話人会
- 15日 栃木地域交流会世話人会  
PV-Green (太陽のグリーン電力証書) 説明会  
(静岡地域交流会)
- 17日 山梨地域交流会世話人会
- 18日 東京地域交流会世話人会

(5月)

- 1日 事務局お休み
- 10日 神奈川地域交流会世話人会  
普及広報部会
- 12日 埼玉地域交流会世話人会  
千葉地域交流会世話人会
- 14日 静岡地域交流会世話人会
- 16日 東京地域交流会世話人会
- 18日 PV-Green事業部会
- 20日 第3回太陽光発電基礎講座
- 23日 神奈川地域交流会 見学会開催
- 26日 臨時理事会
- 28日 事務局 お休み
- 29日 「柏のストップ温暖化展」出展  
(千葉地域交流会)  
山梨地域交流会世話人会
- 30日 「柏のストップ温暖化展」出展  
(千葉地域交流会)
- 31日 「柏のストップ温暖化展」出展  
(千葉地域交流会)